

虐待防止の思いをつなぐワークショップ

# ばんこっき(万子旗)をつくらう

日本子ども虐待防止学会かがわ大会を彩る”おもてなし”の旗

アートワークショップ  
つながる応援  
-ばんこっき-  
万子旗

日本子ども虐待防止学会第30回学術集会かがわ大会(11月30日~12月1日、場所:サンポート高松)が開催されます。

本ワークショップは、その関連アートプログラムとして、「虐待防止の活動を広く知ってもらい、すべての人に『自分ごと』として考えてもらおう」と、大会に先立って実施するものです。

ワークショップでは、たくさんの方に「子どもたちの幸せを応援する」旗をつくらってもらい、その一枚一枚をつなげて、「ばんこっき(万子旗)」を制作します。完成作品は大会の会場に飾られ、全国からの参加者を“おもてなし”します。



アートワークショップ  
つながる応援  
-ばんこっき-  
万子旗

「自分ごと」として考える  
2つのワークショップ

## 光の“ばんこっき”

ファシリテーター / 井上 由希子

虐待防止のテーマカラーであるオレンジを基調として、光を透すトレーシングペーパーを用いた切り紙のワークショップ。色紙を使って、「自分自身から放射している光」を表現します。切り残した紙はどんなに小さくても捨てないで、次の誰かのワークに使います。



## ことばの“ばんこっき”

講師 / 山地 千晶

大島青松園で生涯の大半を過ごした詩人の塔和子さん。ワークショップでは、中学生がピックアップした塔さんのことばの中から、参加者がその時自身に一番響くものを旗に書き写します。



どちらの作業も、子どもたちへの励ましや加害に対する非難の気持ちを直接的に形にするものではありません。参加者が自身の内面に向き合い表現することを通して、この問題を自分に引き寄せて“考えてみる”ことにつながればと企画しています。

## 「点」で終わらないものづくり 人と人がつながり合い、光り合える「場」づくりを！

四国こどもとおとなの医療センターでは開院以来10年にわたり、NPO法人アーツプロジェクトと協働し、アートのボランティア活動を通じて、子どもたちの居場所づくりをしてきました。この場所では、普段「治療を受ける」側の子どもたちが「病院を応援する」側になります。アートが醸し出すフラットな空気の中で、子どもたちと共にボランティア活動をしていると、ふと、どちらがサポートしているのかわからなくなります。子どもたちの「切実な表現」に感動し、気づきや励ましを受ける場面があまりにたくさんあるのです。子どもたちの命を照らそうとしていた自分たちが、逆に子どもたちの命に照らされていることに気づきます。私たちは、子どももおとなもつながって、お互いの光で照らし合い、今、ともにこの世界を作っています。

このワークショップが、みんながつながり、安心して「痛い」と言える、ありのままの自分を表現できる、より良い“場”づくりのきっかけとなるよう願っています。

四国こどもとおとなの医療センター アートディレクター  
NPO 法人アーツプロジェクト代表  
森 合音

考えるヒント  
「特別な親ではない」

「自分ごと」として考えるには、「虐待する親は特別である」という思いを捨てる必要があります。自分自身も含めて、どのような親にもさまざまな事情があり、ストレスがあり、居場所がなかったり、周囲の支えが十分でなかったりすると、虐待的な関わりをしてしまう可能性があります。それを意識することが「自分ごと」と考えることだと思います。

—— 小児科医（虐待防止担当） ——